埼玉親善大使レポート
－留学中の活動報告書－

安本　雅

活動の場所：ドイツ　ベルリン

1. 埼玉県を PR した活動について

今回のドイツのベルリン芸術大学への留学において、私は埼玉県の魅力を伝える機会をいくつか持つことができました。

学校では、授業の建築のリサーチ活動を通じて、埼玉に存在する建築作品をドイツの学生に紹介しました。日本建築の多様性や現代的な展開を伝える中で、埼玉にユニークな事例が数多く存在することを強調しました。こうした建築作品を通じて、ドイツの学生たちは日本の地域的な個性を理解するきっかけを得ていたように思います。

また、日常的な交流の場でも埼玉の PR を心がけました。例えば、お土産として持参した狭山茶を知人やイベント参加者に振る舞い、味わってもらいました。日本茶はドイツでも広く知られていますが、「埼玉県の特産品」として紹介することで、地域性に基づく新たな発見を提供できました。さらに、スタジオジブリ作品『となりのトトロ』の話題になった際には、その舞台が埼玉であることを強調しました。ドイツでもジブリ作品は人気が高く、映画をきっかけに埼玉に関心を持ってもらえる場面もありました。

日独ベルリンセンターで開催された「守破離」というイベントへも参加しました。この催しは、ヨーロッパ在住の日本人が現地のドイツ人や日本文化に関心を持つ人々に向けて、自らの活動や文化を紹介する場でした。私はそこで交流し、埼玉に関わる文化を紹介する機会を持ちました。

これらの取り組みを通じて、単に日本文化全般を伝えるのではなく、「埼玉県」という具体的な地域に光を当てることができたのは、親善大使として大きな意義があったと考えています。

2. 現地での生活、風土、文化について

ベルリンでの生活は、日本とは大きく異なる点が多く、最初は戸惑うこともありました。特に、コンビニエンスストアのような便利な店舗がなく、日曜日にはほとんどの店が閉まってしまうこと、また外食の物価が高いことなどから、当初は不便さを強く感じました。しかし、その「不便さ」は次第に豊かさに変わっていきました。

日曜日に買い物や外出先が限られる分、自然と公園や湖畔でゆったりと過ごす時間が増えました。ベルリンには豊かな自然環境が身近にあり、そこで何をするでもなく静かに過ごす経験は、日本ではなかなか得られない貴重なものでした。こうした「ゆとりのある時間の

流れ」は、生活をより落ち着いたものにしてくれました。

また、ベルリンの街は非常に多様で、さまざまな国籍や文化的背景を持つ人々が共存しています。そのため街には雑然とした雰囲気がありますが、不思議なことに、その中に静けさや落ち着きが同居しているのです。例えば賑やかな都市の通りを少し外れると、緑豊かで静謐な空間が現れ、そこでは人々が思い思いに時間を楽しんでいます。この「にぎやかさ」と「落ち着き」の同居はベルリン独自の魅力であり、次第に私自身もその空気を心地よく感じるようになりました。

文化面では、自由な雰囲気が根付いており、特に学生や若者が積極的に自己表現を行っている姿が印象的でした。建築やアートの分野でもその傾向は強く、日常生活の中にも創造性や多様性が自然に息づいていると感じました。

3. 自分の活動について

学業面での経験も大きな収穫でした。私が所属したスタジオでは、学生同士が自発的に展示の形式や内容を話し合い、協働してプロジェクトを進めていました。成果物の形式も一様ではなく、模型やドローイング、映像など、多様な手法が尊重されていました。その根底には、単に課題を与えられてこなすのではなく、学生自身が問題を設定し、仲間と議論しながら答えを模索するという姿勢があるように思います。

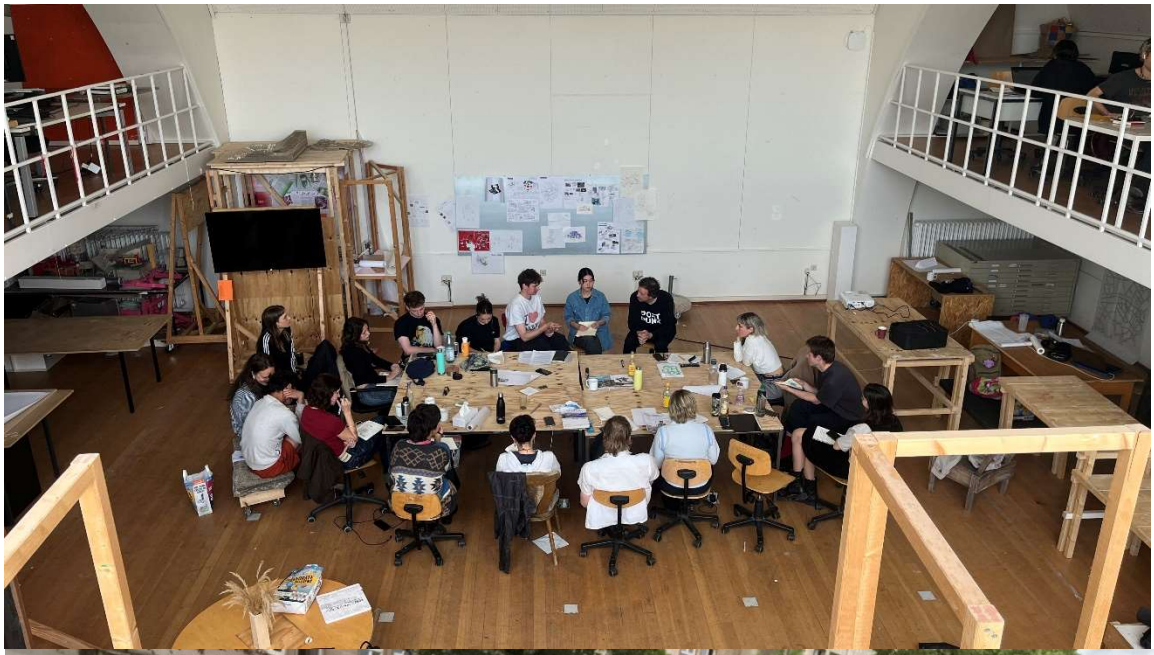
また、学内には学生が運営するカフェがあり、そこも重要な交流の場でした。学生たちは互いの活動やアイデアを自然に共有し合い、学び合っていました。こうした自主的・協働的な学びの姿勢は、日本の大学教育とは異なる部分が多く、自分にとって新鮮で刺激的な経験となりました。

さらに、自分自身の研究テーマと関連づけながら、日本、特に埼玉の建築を紹介する機会を積極的に作ったことは、自分の学びにもつながりました。埼玉の建築を海外の文脈で語ることで、これまでとは異なる視点からその価値や意味を捉え直すことができたのです。

4. まとめ

今回の留学を通じて、埼玉県の魅力を海外に発信すると同時に、ベルリンという都市の多様性や自由さから多くを学ぶことができました。生活の中で感じたゆとりある時間の価値、学生同士で主体的に活動を進める学びのスタイル、そして国際的な視点から埼玉の建築を再評価する経験は、今後の自分の成長に大きな糧となるものです。

親善大使としての活動を通じ、地域の魅力を発信する責任と意義を改めて実感しました。これからも、埼玉と世界をつなぐ架け橋となれるよう、学びと経験を重ねていきたいと考えています。



DOSHA

BERLINER
RUDERKLUB
BRANDENBURGIA
BERLINER
RUDERKLUB
BRANDENBURGIA